

## ポジティブ教育と成育環境要因 (2) —24 の強みと学校・家庭の目標構造—

○宇恵 弘 (関西福祉科学大学)  
津田恭充 (関西福祉科学大学)

竹橋洋毅 (奈良女子大学)  
島井哲志 (関西福祉科学大学)

キーワード：ポジティブ心理学、品性の強み、成育環境

### 問 題

島井他 (2018), 宇恵他 (2018), 竹橋他 (2018), 島井他 (2019) によるポジティブ教育に関する一連の研究では, 大学生と高校生を対象とした調査研究によって, 24 項目から成る品性の強み質問紙 (CST24) を作成し, その妥当性の検証, および成長マインドセットとの関連を検討した。

本研究では, 24 の品性の強みが形成される成育環境について検討した。特に, 中学時代の学校の関わりと親の関わりに注目し, それぞれの関わりと 24 の強みとの関連を調べ, 強みを形成させる成育環境についての基礎的な知見を得ることを目的とした。

### 方 法

**調査対象者** インターネット調査会社による調査を実施した。男性 800 名, 女性 800 名, 合計 1600 名, 平均年齢 40.19±10.69 歳 (最大値 59 歳, 最小値 20 歳) であった。

**調査内容** (1) 現在のグリット (竹橋, 2018)。(2) 品性の強み質問紙 CST24。CST24 は, 大竹他 (2005) による日本版生き方の原則調査票 VIA-IS を参考にして作成された 24 の品性の強みを尋ねる 24 項目から成る調査票であった。(3) 中学時代の学校の関わり 14 項目。学校の目標構造 (習得重視 6 項目, 遂行重視 5 項目) と学校享受感 3 項目の 3 要因を尋ねた。(4) 中学時代の親の関わり 17 項目。親の目標構造 (習得重視 6 項目, 遂行重視 5 項目) と社会性重視 6 項目の 3 要因を尋ねた。**倫理的配慮** 本研究は, 関西福祉科学大学の研究倫理委員会の承認を受けている (承認番号 18-46)。

### 結 果

品性の強み 24 項目と, 学校の関わり 3 要因, および親の関わり 3 要因との相関係数を求め, .300 以上の相関が含まれる結果を Table 1 に示した。

学校の関わり, 親の関わりと関連が見られた 6 つの品性の強みは, 島井他 (2018, 2019) での「人間力」因子 (審美性, 感謝心, 希望, 精神性) と「対人力」因子 (親密性, 親切心) に含まれる項目であり, 「知力」や「統制力」の因子に含まれる項目とは関連が見られなかった。また, 「社会性重視\_\_親」は 6 つの強みすべてにおいて, 他の相関係数と比較し高い値を示し, 学校と親ともに, 習

得重視の相関が遂行重視の相関よりも高い値を示していた。

**Table 1** 6 つの品性の強みと, 学校, および親の関わりとの関連

	親密性	親切心	審美性
習得重視__学校	.281	.260	.238
遂行重視__学校 <sup>a</sup>	.025	.031	.040
学校享受感	<b>.303</b>	.264	.183
習得重視__親	.292	.237	.240
遂行重視__親	.106	.113	.154
社会性重視__親	<b>.305</b>	<b>.302</b>	<b>.315</b>

  

	感謝心	希望	精神性
習得重視__学校	.240	.255	<b>.305</b>
遂行重視__学校 <sup>a</sup>	-.014	.037	.028
学校享受感	.216	.279	<b>.300</b>
習得重視__親	.249	.248	.296
遂行重視__親	.119	.172	.178
社会性重視__親	<b>.333</b>	<b>.338</b>	<b>.362</b>

<sup>a</sup> : 「遂行重視\_\_学校」の行を除き全て 1%水準で有意  
一方, これら 6 つの強みは現在のグリットとの関連が特に深いというわけではなく (.232~.352), グリットとの関連が深い (.400 以上) 強みは, 上位から, 勤勉性 (.574), 勇気 (.441), 熱意 (.422), 判断力 (.411) など, 「知力」因子に含まれる項目であった。

### 考 察

目標や志, 夢をもって前に進み, 人の幸せを願い, 感謝の心をもって, 社会に役立つ人となるように育てられると, それらに応じた品性の強みが形成されることがデータとして示された。また, 遂行重視よりも習得重視の関わりが品性の強みの形成に関連している可能性が示された。

さらに, 品性の強みは, 学校や親との関わりに関連する側面と, グリットに関連する側面が異なることを示唆する結果が得られた。

### 付 記

本研究は, 平成 30 年度関西福祉科学大学共同研究費の助成を受けた。